

史跡等の構成要素の整理と明確化

構成要素の分類

<本質的価値>

熊本城跡の構成要素は保存管理計画策定の対象を旧城域とし、本質的価値を有する「特別史跡」指定地と史跡指定以外の地域に本質的価値を構成する枢要の諸要素及びそれ以外の諸要素が混在して存在する。

史跡の本質的価値を構成する要素として、石垣や堀及び重要文化財建造物があり、それ以外の要素として歴史的建造物（復元建造物等）等がある。また、歴史公園（都市公園）としての緑もその要素のひとつである。

(1) 石垣

史跡を構成する重要な要素である石垣は加藤清正が構築し、細川忠利等が整備した石垣が良好に残されている。天正末から文禄、慶長期及び寛永期、江戸中期などの多様な石垣構築技術及びその変遷を知ることが出来る貴重な遺構である。石垣は延長約8.7km、面積約69,000㎡（概数）が残り、本丸地区に約90%が集中している。

① 規模等

② 構築技術による石垣変遷

- ・ 天正～文禄期：現第一高校南側（古城地区）
- ・ 文禄～慶長初：大天守台、御裏五階櫓台、月見櫓台ほか（本丸地区が主）
- ・ 慶長：宇土櫓台、硫黄櫓台ほか（本丸地区が主）
- ・ 慶長末～元和：戌亥櫓台ほか（本丸地区）、百間石垣（二の丸地区）
- ・ 元和～寛永：本丸御殿三階櫓台、飯田丸五階櫓台（本丸地区）ほか
- ・ 江戸中期：櫓方三階櫓台（二の丸地区）ほか
- ・ 江戸末期～明治：数奇屋丸櫓門（本丸地区）ほか

③ 修理履歴等

- ・ 江戸時代に改修された箇所
小天守下石門（元禄15年）、櫓方三階櫓（文政6年）ほか
- ・ 明治22年の地震により崩落し復旧された箇所
飯田丸五階櫓台南側、本丸御殿くらがり通路、馬具櫓台南ほか
- ・ 明治初期に撤去され、現代に復元整備した箇所
西出丸（戌亥櫓～西大手門間）、南大手門櫓台東側、飯田丸の一部等
- ・ 戦後に修理を行った箇所（昭和41年～）
小天守下石門、数奇屋丸櫓門西、奉行丸一帯など24箇所

(2) 堀

堀は本丸と西出丸、西出丸と二の丸を区分する箇所北西側に設置されているから掘が残り、水堀は本丸地区の備前堀のみである。加藤清正は坪井川を内堀、白川を外堀に見立てて整備したといわれている。

① 規模等の整理

(3) 建造物

慶長から寛永期にかけて創建された建造物はかつて大小天守閣をはじめ櫓49、櫓門18、城門29が存在したといわれている。明治初期に軍の管轄化に入りその大部分が解体撤去されているが、明治10年の西南戦争直前の火災等を免れた、宇土櫓など13の建造物等が残り国の重要文化財に指定されている。

《国指定重要文化財》

名 称	創建年代	構造形式	規 模(m ²)	備 考
宇土櫓	慶長期	木造五階、本瓦葺	916.21	本丸地区
田子櫓	//	木造単層、本瓦葺	49.96	//
七間櫓	//	木造単層、本瓦葺	66.99	//
十四間櫓	//	木造単層、本瓦葺	162.11	//
源之進櫓	//	木造単層、本瓦葺	108.40	//
東十八間櫓	//	木造単層、本瓦葺	234.70	//
北十八間櫓	//	木造単層、本瓦葺	144.37	//
五間櫓	//	木造単層、本瓦葺	35.37	//
不開門	//	木造櫓門、本瓦葺	39.01	//
平 櫓	//	木造単層、本瓦葺	111.1	//
長 塀	//	木造土塀、棧瓦葺	242.4m	//
監物櫓	//	木造単層、本瓦葺	140.3	二の丸地区

《県指定重要文化財》

名 称	移築年度	構造形式	規 模(m ²)	備 考
旧細川刑部邸	1993	木造単層一部二層 本瓦葺	931.2	移築復元

《復元建造物》

名称	建築年度	構造形式	規模 (㎡)	備 考
大小天守閣	1960	RC造		外観復元
馬具櫓		ブロック造	122.2	再復元予定
平櫓		//	111.1	外観復元
数奇屋丸二階御広間	1989	木造二層、本瓦葺	832.2	
西大手櫓門		木造櫓門、本瓦葺	248.1	再復元
南大手櫓門	2002	木造櫓門、本瓦葺	330.1	
戌亥櫓	2003	木造二層、本瓦葺	192.2	
未申櫓	2003	木造二層、本瓦葺	186.8	
元太鼓櫓	2003	木造単層、本瓦葺	65.4	
西出丸塀	2003	木造土塀、本瓦葺	157.3	長さ (m)
奉行丸塀	2003	木造土塀、本瓦葺	228.2	長さ (m)
飯田丸五階櫓	2005	木造三層五階、本瓦葺	364	
本丸御殿大広間ほか	2007	木造二層、本瓦葺 一部三層	2161.2	

《現代になって建築された建造物》

名称	建築年度	構造形式	規模	備 考
熊本市役所古京町別館				旧熊本家庭裁判所

(4) 緑く樹木>

熊本城内には国指定の天然記念物「藤崎台のクスノキ群」をはじめ、本丸御殿跡露地の大銀杏（別名銀杏城の由来となる）や飯田丸のクスノキなどあり、熊本城のシンボルともなっている。

平成20年度に熊本市管理城域を8地区に分けて現況調査を実施している。

<本丸地区>

① 本丸、平左衛門丸、数奇屋丸

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 101本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 51本

② 飯田丸、東竹之丸

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 78本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 91本

③ 竹之丸

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 103本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 62本

④ 本丸北東側

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 136本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 124本

⑤ 西出丸一帯（から堀含む）

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 115本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 10本

<二の丸地区>

⑥ 二の丸広場、催し広場

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 227本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 66本

⑦ 二の丸駐車場南西側

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 178本
- ・クスノキなどの高木常緑樹 160本

⑧ 野鳥園、清爽園

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 143本
- ・モチノキ、ツバキなどの高木常緑樹 239本

<古城地区>

* 旧細川刑部邸

- ・モミジやケヤキなどの高木落葉樹 78本
- ・モチノキ、ツバキなどの高木常緑樹 212本

* 古城堀端公園

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 28本
- ・モチノキ、モクセイなどの高木常緑樹 16本

* 古城地区（買収地）

- ・サクラやムクノキなどの高木落葉樹 21本
- ・モチノキ、ツバキなどの高木常緑樹 36本

※昭和51年 熊本記念植物採集会 調査記録を基に樹齢200年以上の大木を図示